

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成31年1月29日

協議会名： 御宿町地域公共交通会議

評価対象事業名： 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
株式会社 小湊鉄道	町内全域をカバーする乗合運行(デマンド型)を地域内フィーダー系統確保維持事業として、平成26年10月1日から実施。これは、ルートを定めず、運行エリア内を乗合で移動するもので、事前予約型・町内全域乗合タクシーとして運行している。	高齢者の利用が多いことから、安全に乗降できるよう自動スライドドア及び自動乗降ステップを搭載した車両へと更新した(平成30年6月)。迎え時の待ち時間の幅が大きくなることによる不安を解消するため、車両の位置がスマホ上で確認できるシステムを取り入れた(平成30年6月)。	A (事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された)	C (事業が計画に位置づけられた目標を達成できなかった) ※目標15人/日→12.1人 総数5,187人→4,379人 ▲808人 ※収入1,523,900円→1,229,900円 ▲294,300円	・利用者の状況を見ると、リピーターが多く、通勤や買い物、通院など日常の移動手段として利用されていることが分かる。 ・引き続き利用状況の統計を蓄積し、ニーズに応じて改善する必要があるとともに、改善に伴う利用者への影響を十分に考慮しながら運行設計を行う必要がある。 ・登録者数に対してリピーターの割合が低いことから、移動を困難と感じている方はもっと潜在すると思われるため、利用の障害となっていることや情勢の変化をはじめ、要望やニーズを適時的確に把握し、サービスに生かしていく必要がある。

平成30年度 御宿町地域公共交通会議 (千葉県御宿町) (地域内フィーダー系統確保維持事業)

地域の公共交通の現況

御宿町は都市部からの転入者が多いことから、人口減少率は近隣市町と比べ緩やかである。しかし65歳以上の人口比率は高く、高齢化率は千葉県内1位(49.4%)である。

このような状況のなかで、町内を移動する交通手段はタクシーのみであり、高齢者等の移動が困難になっている地域もある。

また、町外への交通アクセス手段である路線バス(JR御宿駅とJR勝浦駅を結ぶ)の利用者も減少傾向にある。

事業の目的・必要性

高齢化が県内トップである状況や自動車免許証の返納も増加傾向にある状況などから、高齢者の移動手段の確保は大きな課題となっている。また都市部からの移住者(2地域居住含む)が増加していることから、生活圏の広域化等により町民の移動ニーズは多様化しており、こうしたニーズに対応した公共交通ネットワークの構築が急務となっている。

このような状況の中、地域のニーズに合った交通サービスを将来にわたり確保・維持するため、地域内フィーダー系統確保維持事業を実施する。

事業の概要

地域間交通を確保・維持する取組みとして、町内全域をカバーする乗合運行(デマンド型)を地域内フィーダー系統確保維持事業を平成26年10月1日から実施している。これは、ルートを決めず、運行エリア内を乗合で移動するもので、事前予約型・町内全域乗合タクシーとして運行している。

【デマンド交通「エビアミー号」】

事業者名：株式会社小湊鉄道

運行区域：御宿町全域

運行日：月曜～日曜(年末年始のみ運休)

運行時間帯：午前7時30分～午後4時30分

運行本数：8便/日

運行車両：日産キャラバン10人乗り

運賃：大人300円、小学生100円、障害者手帳交付者200円

資料2



半島振興対策
実施地域指定

面積	24.86km ²	
人口 (H30.12.28時点)	7,528人	
年齢別人口	15歳未満	496人
	65歳以上	3,770人
高齢化率	50.1%	
世帯数	3,686世帯	

協議会開催状況

○協議会の開催状況 11回開催

- ・(H26. 1. 28) 乗合運行計画(案)を協議
- ・(H26. 2. 25) 目標・効果、費用総額を協議
- ・(H26. 3. 25) ネットワーク計画の協議等
- ・(H26. 6. 12) ネットワーク計画の協議等
- ・(H27. 6. 17) ネットワーク計画の見直し
- ・(H28. 1. 22) 平成27年度1次評価
- ・(H28. 6. 21) ネットワーク計画の協議等
- ・(H29. 1. 20) 平成28年度1次評価
- ・(H29. 6. 21) ネットワーク計画の協議等
- ・(H30. 1. 22) 平成29年度1次評価
- ・(H30. 6. 25) ネットワーク計画の協議等

前回の事業評価結果の反映状況

高齢者の利用が多いことから、安全に乗降できるよう自動スライドドア及び自動乗降ステップを搭載した車両へと更新した(平成30年6月)
迎え時の待ち時間の幅が大きいことによる不安を解消するため、車両の位置がスマホ上で確認できるシステムを取り入れた。

定量的な目標・効果

【目標】

- ・1日当たりの利用者数を15人以上を見込む。
- ・運賃収入は1,523,900円を見込む。

【目標を設定した理由】※何故この目標にしたのか

- ・利用環境の改善による需要増を反映し、利用者数5,187人と設定した。

【効果】

- ①主要な公共施設をはじめ、商店や医療施設へアクセスできる公共交通サービスを提供する。
- ②JR及び民間バスといった幹線交通軸に接続する公共交通サービスを確保する。
- ③公共交通サービスの提供により徒歩では移動が困難な交通不便地域の解消を図る。



目標効果の達成状況

【実績】

利用者数: 総数4,379人(計画比 $\Delta 808$ 人、 $\Delta 15.6\%$)

運賃収入: 1,229,900円(計画比 $\Delta 294,000$ 円、 $\Delta 19.3\%$)

- ・利用者数、運賃収入ともに計画値を下回った。また、前年と比較しても利用者で $\Delta 410$ 人($\Delta 8.6\%$)、運賃収入で $\Delta 101,000$ 円($\Delta 7.6\%$)となっている。
- ・計画期の前期から中期にかけて前年同月比が大きく落ち込んでいる。この利用者の低迷は平成29年8月から顕著となっているもの。後期には回復し、前年同月比でプラスに転じている。

【要因】

- ・利用者が低迷し始めた平成29年8月は、運行ダイヤをJRの特急利用者向けに改定した時期と重なり、ダイヤ改定が裏目に出たことが想定されるが、降車場所ごとの状況を見ると利用者の低迷は駅に限ったことではなく、医療機関付近の降車場所でも生じている。そのため、ダイヤ改正により特急への乗継が便利になった方よりも、その他の鉄道利用者や医療機関利用者にとって一時的に行動リズムからはずれたと想定する。しかし平成30年6月からは利用者数が回復している。そのため、時間とともに行動リズムをダイヤに合わせていただいて利用者が回復したと想定し、利用者の低迷は一時的であると考え。

アピールポイント

- ①自宅まで送迎してくれる。
- ②タクシーより割安
- ③毎日運行している。
(12月29日から1月3日は運休)

今後の改善点

- ・利用者の状況をみると、リピーターが多く、通勤や買い物、通院など日常の移動手段として利用されていることが分かる。
- ・引き続き利用状況の統計を蓄積し、ニーズに応じて改善する必要があるとともに、改善に伴う利用者への影響を十分に考慮しながら運行設計を行う必要がある。
- ・登録者数に対してリピーターの割合が低いことから、移動を困難と感じている方はもっと潜在すると思われるため、利用の障害となっていることや情勢の変化をはじめ、要望やニーズを適時的確に把握し、サービスに生かしていく必要がある。



御宿町全図 (御宿町全域が半島振興対策実施地域)

